

略年譜

服部 孝章

学 歴

- 1973年3月 上智大学法学部法律学科卒業
- 1975年3月 上智大学大学院文学研究科新聞学専攻博士前期課程修了
- 1980年3月 上智大学大学院文学研究科新聞学専攻博士後期課程単位取得満期退学

職 歴

- 1979年4月 日本新聞協会嘱託研究員（～1981年3月）
- 1980年4月 東海大学文学部広報学科専任講師
- 1985年4月 東海大学文学部広報学科助教授
- 1989年4月 立教大学社会学部社会学科助教授
- 1991年4月 立教大学社会学部社会学科教授（～2006年3月）
- 1994年4月 立教大学教務部長（～1996年3月）
- 1997年4月 立教大学社会学部社会学科長（～1999年3月）
- 2002年4月 立教大学大学院社会学研究科前期課程主任（～2007年3月）
- 2006年4月 立教大学社会学部メディア社会学科教授（～2015年3月）
- 2007年4月 立教大学人権・ハラスメントセンター長（2009年3月）

上記のほか、成城大学文芸学部、青山学院女子短期大学、法政大学法学部・社会学部、拓殖大学海外事情研究所、慶応義塾大学新聞研究所・メディアコミュニケーション研究所、早稲田大学社会科学部・政治経済学部、京都大学法学部、上智大学文学部新聞学科、中央大学法学部、立教セカンドステージ大学などで非常勤講師。

所属学会（国内）

日本マス・コミュニケーション学会、情報通信学会

学外活動歴

- 1983年4月 情報通信学会 研究会幹事（～1997年3月）
 1986年4月 日本マス・コミュニケーション学会 研究企画委員（～1988年3月）
 1987年4月 日本マス・コミュニケーション学会 評論編集委員（～1992年3月）
 1990年4月 日本マス・コミュニケーション学会 評論編集委員（～1997年3月）
 2001年4月 日本マス・コミュニケーション学会 評論編集委員（～2003年3月）
 2001年4月 情報通信学会理事（～2015）
 2007年6月 BPO（放送倫理・番組向上機構）放送倫理検証委員会委員（～2013年3月）

業績一覧

【単行本】（著書・編著書・訳書）

- 服部孝章・松平恒・須藤春夫・中森謹重,1992『多メディア状況を読む』大月書店
 服部孝章編,1997『放送：テレビは21世紀のマスメディアたりえるか』大月書店
 服部孝章・田島泰彦・右崎正博編,1998『現代メディアと法』三省堂
 服部孝章代表編集,2001『新マスコミ学がわかる：AERA MOOK』朝日新聞社

【論文等】

- 服部孝章・春原昭彦・川井良介,1978「戦時報道の実態—2—」『コミュニケーション研究』11, 59～97
 服部孝章,1978「放送衛星と国際社会」『新聞学評論』27,79-91
 服部孝章,1979「GERHARD WETTIG, Broadcasting and Detente Eastern Policies and their Implication for East-West Relations, C.Hurst & Company」『新聞学評論』28,163-165
 服部孝章,1981「諸外国における情報公開の実態と機能（情報公開＜特集＞）」『自由と正義』32(2),10-16
 服部孝章,1983「放送コミュニケーションの国際政治学（コミュニケーションと世界＜特集＞）」『海外事情』31(9),18-28
 服部孝章,1984「権威主義的人間——現代人の心にひそむファシズム」曾良中清司著『文明』41,75-83
 服部孝章,1985「マスコミと選挙 76 政見放送の一部削除と公選法一五〇条一項」『別冊ジュリスト』85(1985.6)
 服部孝章・北山修・内田剛弘・岩見隆夫・横山晃一郎・免田栄・草野光子,1985「シンポジウム／人権と報道を考える（上）」『法学セミナー』370(1985.10)
 服部孝章・北山修・内田剛弘・岩見隆夫・横山晃一郎・免田栄・草野光子,1985「シンポジウム／人権と報道を考える（下）」『法学セミナー』371(1985.11)
 大森幸男・服部孝章・大谷堅志郎・東山禎之・岩田温・林進・高木教典,1986「マスメディアの集中排除：放送制度との関連において」『新聞学評論』35,227-237

- 服部孝章・梓澤和幸, 1987「今、なぜ「取材される側の権利」なのか 報道の自由とプライバシーの両立を求めて」『放送レポート』87 (1987.7)
- 服部孝章, 1987「放送局開設ならず<上>日本有料テレビ(株)の免許申請をめぐる」『放送レポート』89 (1987.11)
- 服部孝章, 1987「放送局開設ならず<下>日本有料テレビ(株)の免許申請をめぐる」『放送レポート』90 (1987.12)
- 服部孝章, 1988「オンブズマンと報道の自由——自己批判と「情報公開」(人権と報道を考える)——(報道オンブズマン・報道評議会の現在)」『法学セミナー 増刊 総合特集シリーズ』39, 264-273
- 新井直之・服部孝章, 1988「3 マスコミ法制: マスメディアと国家秘密法」『新聞学評論』37, 254-255
- 服部孝章, 1988「プレス・オンブズマン制度——ジャーナリズム哲学深化への契機(人権と報道<特集>)」『自由と正義』39 (9), 47-49
- 松田浩・岩田温・浜田純一・青木貞伸・服部孝章・須藤春夫・内川芳美・野崎茂「放送制度の課題と展望」『新聞学評論』38, 177-203
- 服部孝章, 1989「シリーズNHK研究3 消費税課税と衛星料金の新設が意味するもの“対価”的性格帯びる「特殊な負担金」受信」『月刊民放』1989.5
- 服部孝章, 1989「「衛星利用」をめぐる放送行政の課題(新電気通信時代とマスメディア)」『新聞研究』456, 29-31
- Takaaki Hattori, 1989 The Administration of Radio Waves for Broadcasting in Japan — Characteristics and Current Issues— 'STUDIES OF BROADCASTING', Broadcasting Culture Research Institute. NHK, No.25, pp.41-75
- 服部孝章, 1990「急がれる「公共性原理」の確立(2001年への「新聞」の旅—1—)」『総合ジャーナリズム研究』27 (2), 74-77
- 服部孝章・川本勝, 1990「CATV」『新聞学評論』39, 269-270
- 服部孝章・清水英夫, 1990「人権と報道」『新聞学評論』39, 283-284
- 服部孝章, 1990「TBS未編集テープ押収事件の問題点(マスコミの焦点)」『新聞研究』468, 86-88
- 服部孝章, 1991「マスメディアと戦争報道——湾岸戦争の報道規制をめぐる(マスコミを考える——そのゆがみの構造<特集>)」『日本の科学者』26 (10), 586-591
- 服部孝章, 1991「湾岸戦争でマスメディアの果たした役割」『月刊社会教育』35 (11), 60-65
- 服部孝章・立教大学社会学部社会学科服部研究室, 1992「ラジオ・テレビ欄の研究——新聞の機能と役割」『応用社会学研究』34, 239-255
- 服部孝章, 1993「都民の知らない都民のテレビ東京U局開局の意味」『新放送文化』29
- 服部孝章, 1993「情報を獲得する場に 感じる記者の気概 組織論理の中で」『奔流』61号
- 服部孝章, 1993「総括・メディアの視点——ジャーナリズムの再生のために(市民のためのジャーナリズムは可能か?——政権交代をむかえた中でのメディアの状況と法<特集>)」『法と民主主義』282, 14-18
- 服部孝章, 1994「皇太子結婚報道調査——新聞がテレビになった日」『応用社会学研究』36, 89-141
- 服部孝章, 1994「現代日本のメディア状況——その構図と課題(現代メディアと民主主義<特集>)」『法の科学』22, 149-153
- 服部孝章, 1994「奇妙で危険な三浦裁判 「ロス疑惑」事件判決と疑惑「報道」の問題点」『週

- 刊金曜日』1994. 4.15
- 服部孝章, 1994 「視聴者に「事実」のすべてを（「自己検証」番組を検証する〈特別企画〉）」『総合ジャーナリズム研究』31 (3), 8-11
- 服部孝章, 1994 「放送の公正とは何か（報道と人権〈特集〉）」『自由と正義』45 (8), 14-20
- 服部孝章, 1995 「揺らく放送行政——マルチメディア時代を控えて、準備されている放送法改正の真意とは?」『世界』607, 188-191
- 服部孝章, 1995 「特集 取材される側の権利する側の論理 担当者個々の判断だけでなくテレビ局は犯罪報道等への全体的基準を示すべき」『アウラ』109号 (1995年7・8月号)
- 服部孝章, 1995 「規制機関のあり方と免許制度（放送制度の将来と放送法〈特集〉）」『法律時報』67 (8), 22-27
- 早川善治郎・服部孝章・八田正信 [他], 1996 「55年体制の崩壊と日本のジャーナリズム (2)」『応用社会学研究』38, 133-281
- 服部孝章, 1996 「《表現の自由》災害報道:日常の報道姿勢の所産と情報環境の監視（〔特集〕震災・「オウム」で憲法入門——（第一部「震災」編）」『法学セミナー』496, 54-56
- 堀部政男・小菅敏夫・服部孝章・清家秀哉, 1996 「情報化社会の諸課題に関する研究会:NTIA（米国商務省電気通信情報局）の『プライバシーとNIIに関する報告書』について:オーストラリア及びOECD合同会合とアメリカの1996年電気通信法について」『情報通信学会誌』14 (1), 61-64
- 服部孝章, 1997 「番組批評・自己検証番組の意義と問題点」『マスコミ倫理』448, 2
- 服部孝章, 1997 「自治体出資テレビの議会中継は報道か広報か」『週刊金曜日』5 (32), 49
- 服部孝章, 1997 「メディア判例研究 議会中継録画放送における議員発言抹消と名誉毀損——ケーブルネットワーク金光・議会発言カット事件（岡山地裁倉敷支部判決平成9.2.6）」『法律時報』69 (10), 102-104
- 服部孝章, 1998 「アメリカにおけるVチップの現状と問題点」『月刊民放』28 (3), 24-27
- 服部孝章, 1998 「エッセイ'98 Vチップと青少年保護——「有害情報」批判の嵐の中で」『視聴覚教育』52 (6), 5-7
- 服部孝章, 1998 「Vチップと表現の自由（特集 表現の自由と少年の人権）——（メディアと青少年保護）」『法律時報』70 (11), 34-36
- 服部孝章, 1998 「放送概念の再検討:デジタル化を急がされる放送（特集 メディア・コミュニケーション）——（第1部 マス・コミュニケーション）」『Keio SFC review』2 (2), 27-34
- 服部孝章, 1999 「論点54 Vチップを導入すべきか 番組選びは親の責任—Vチップはかえって「劣悪」番組を増やす」文藝春秋編『日本の論点99』
- 服部孝章, 1999 「目前の多チャンネル時代と放送行政・放送業界（テレビの近未来）（特別企画 生き返れ!テレビ）」『世界』661, 117-121
- 服部孝章, 1999 「『ニュースステーション』発所沢ダイオキシン報道と報道の自由」『放送レポート』158 (1999年5・6月号)
- 服部孝章, 1999 「よみがえれ!労働組合（特集 放送局労組よ、どこへいく?）」『ぎやらく』362, 26-29
- 服部孝章, 1999 「専門家会合の「取りまとめ」とメディア総研の「提言」の対比を中心に「青少年と放送」で何が変わるか!？」『放送レポート』160 (1999年9・10月号)
- 服部孝章, 2000 「スポーツ・ジャーナリズムとメディア・イベント（特集 スポーツ・メディアへの視線）」『現代スポーツ評論』2, 52-63
- 服部孝章, 2000 「「開かれたNHK」が泣く 経営委員会議事録公開のおそまつ」『放送レポ

- ト』164 (2000年5・6月号), 24-25
- 川崎泰資・渡辺武達・服部孝章, 2000「今、放送の公共性とは?」『マス・コミュニケーション研究』57, 164-166
- 服部孝章, 2001「マスコミ報道とプライバシー「お手軽人権」が「公権介入」を招く(ボヤボヤしていると悪法がスイスイ通ってしまう)」『諸君』33 (4), 80-87
- 服部孝章, 2002「放送の未来像——技術革新に見合った公共性を(特集 21世紀・日本のグランドデザイン)」『環』9 (2002年春号), 372-375
- 服部孝章, 2002「自主規制を無意味にする自民党法案(緊急企画「青少年有害社会環境対策基本法案」の問題点)」『月刊民放』32 (2), 12-14
- 服部孝章, 2002「青少年有害社会環境対策基本法案批判(特集2 メディア規制と表現の自由)」『法律時報』74 (12), 60-63
- 服部孝章, 2003「「拉致」報道と権力監視ジャーナリズムの存在(特集「拉致」報道を考える)」『月刊民放』33 (2), 4-7
- 服部孝章, 2003「報道機関としての視座が歴史に刻まれる(イラク侵略に加担するメディア)」『週刊金曜日』11 (15), 17-19
- 服部孝章, 2003「メディア・リテラシーの重要性とメディア接触・情報解読の必要性(特集 情報を読み解き、発信する)」『月刊社会教育』47 (12), 4-10
- 服部孝章, 2003「形骸化する「報道の自由」(ダイオキシン報道訴訟・最高裁判決を考える)」『月刊民放』33 (12), 23-26
- 服部孝章, 2004「裁判員制度と報道規制——「開かれた司法」から「司法の密室」化」『アウラ』163, 38-41
- 服部孝章, 2004「「報道写真」と社会(シンポジウム アメリカの報道写真)」『立教アメリカン・スタディーズ』26, 35-45
- 服部孝章, 2004「防衛庁の「連続攻撃」に従順なメディア～政府広報から取材申請書まで～」『放送レポート』188 (2004年5・6月号)
- 服部孝章, 2005「放送法軽視とNHK・民放併存体制の維持(再構築 放送の2元体制(1))」『月刊民放』35 (2), (404), 5-9
- 服部孝章, 2005「混迷するジャーナリズムの自律性——政治とマスコミの距離をどうとるか」『出版ニュース』2031, 6-9
- 服部孝章, 2005「NHK政治介入疑惑「検閲」は許されない——「みなさまのNHK」はどこへ行く」『世界』737 (2005年3月号), 54-58
- 服部孝章, 2005「求められる「公共的価値」の構築——明確な説明と将来像の提示を(特集 公共放送としてのNHKの在り方)」『世界週報』86 (12), 10-13
- 服部孝章, 2005「「知る権利」の今日的状況——問われる報道機関のジャーナリズム機能」『新聞研究』646, 31-35
- 服部孝章, 2005「検証・総選挙報道 激情をあおり興奮し続けたメディア(自壊するメディア)」『週刊金曜日』13 (41), 14-16
- 服部孝章, 2005「受信料制度の崩壊と新放送法の必要性(特集 NHK番組改変問題から見てきたもの——日本のジャーナリズムを検証する)——(第3部 NHK批判の手段としての受信料支払拒否)」『法と民主主義』403, 37-40
- 服部孝章, 2006「戦争とメディア イラク侵攻以降の報道とその問題点」『「対テロ戦争」と現代世界』御茶ノ水書房
- 服部孝章, 2006「視聴者が参画するシステムが不可欠——放送法制の起源と沿革(特集 放送の原

- 点を考える)』『月刊民放』36(5), 10-13
- 服部孝章, 2006「NHK改革と日本の電波行政——軽視される民主制度の理念(特集 放送改革と政治)」『世界週報』87(20), 12-15
- 服部孝章, 2006「「取材源の秘匿」をめぐる報道の自由と知る権利」『法学セミナー』51(8), 8-11
- 服部孝章, 2006「世界の潮 命令国際放送問題とNHKの自立性放棄」『世界』759(2006.12), 20-24
- 服部孝章, 2007「人権・ハラスメント対策の現状と課題(特集 大学のガバナンス——危機管理の側面から)」『大学時報』56(312), 56-61
- 服部孝章, 2007「世界の潮 放送内容への介入を始めたNHK経営委員会」『世界』772(2007.12), 25-28
- 服部孝章, 2008「講談 放送法改正と表現の自由」『放送レポート』210号(2008年1・2月号), 6-12
- 服部孝章, 2008「裁判員制度と事件報道・裁判報道(特集 裁判員制度——裁判に新たな地平を拓くか)」『都市問題』99(12)2008/12, 14-18
- 服部孝章, 2009「市民の意向を反映した放送の将来像を——迷走する通信・放送法制論議」『月刊民放』39(4), 24-27
- 服部孝章, 2009「メディアの透明性・説明責任と第三者機関——メディアのあり方を基本的に見直す必要がある」『出版ニュース』2186, 6-9
- 服部孝章, 2009「市民の意向を反映した放送の将来像を——迷走する通信・放送法制論議」『月刊民放』39(4), 24-27
- 服部孝章, 2009「メディアの透明性・説明責任と第三者機関～メディアのあり方を基本的に見直す必要がある」『出版ニュース』2186, 6-9
- 服部孝章, 2009「経営陣は現場を理解しているかー「真相報道バンキシャ!」虚偽証言放送問題から見える課題」『新聞研究』699, 56-59
- 服部孝章, 2009「誰のため、何のための訂正放送かーBPOの2つの勧告から」『月刊民放』39(10), 8-11
- 服部孝章, 2011「テレビは時間泥棒です(特集“正義”を疑え!)」『まなぶ』647, 34-38
- 服部孝章, 2011「念仏のように「安全」を唱えたメディア「原発推進派」をあえて再登場させよ(検証3.11報道)」『Journalism』258, 37-43
- 服部孝章, 2012「いま求められる表現・報道機関が一斉にあげる批判 ジャーナリズム機能の衰退と公権力の介入」『出版ニュース』2271, 4-9
- 服部孝章, 2013「全国メディアと地方メディアの格差: 政府広報化と争点提示を忘れた全国メディア(特集TPPで変わる農村社会・生活(part1))」『農村と経済』79(8), 63-73

【新聞掲載コラム等】

- 1991年10月～至1992年6月 月1回 『読売新聞』夕刊「私のテレビ評」
- 1994年4月～1995年3月 月1回 共同通信社「放送時評」(北海道、河北、京都、南日本他多数の加盟紙夕刊)掲載
- 1996年5月～2011年6月 ほほ月1回掲載 『毎日新聞』朝刊「放送時評」のち改題「メディアを読む(放送)」

【ゼミ生との共同執筆報告書・調査レポートなど】

- 立教大学社会学部服部研究室「『ご成婚』一色に染められた走査線 全調査<6月9日のテレビ>」『放送レポート』126
- 立教大学社会学部服部ゼミ, 1998「朝日毎日読売三紙にみるベルー人質事件報道の検証」『放送レポート』152
- 立教大学社会学部服部研究室, 1999「全調査! Vチップ問題と番組基準への放送局の対応」『放送レポート』157
- 服部孝章ゼミ+田島泰彦ゼミ+右崎正博ゼミ, 2003「メディアゼミ・フォーラム 2002「表現の自由」と「人権」は、いま」『法学セミナー』48(4), 106-108
- 服部孝章ゼミ+田島泰彦ゼミ+右崎正博ゼミ, 2004「ロー・フォーラム メディアゼミ・フォーラム 2003/2004 表現の自由とメディアを考える」『法学セミナー』49(5), 120-122
- 服部孝章ゼミ, 2005「映倫システムと青少年」『放送レポート』192
- 立教大学服部研究室, 2005「たかが野球、されど野球—プロ野球再編問題における朝日・毎日・読売新聞の報道検証」『放送レポート』197
- 上智大学田島泰彦ゼミ・立教大学服部孝章ゼミ, 2005「ロー・フォーラム メディアゼミ・フォーラム 2004/2005 いま、メディアに求められるもの」『法学セミナー』50(4), 92-94
- 上智大学田島泰彦ゼミ・立教大学服部孝章ゼミ, 2006「ロー・フォーラム メディアゼミ・フォーラム 2005/2006 —戦後60年・小泉政治とジャーナリズム」『法学セミナー』51(4)
- 立教大学社会学部服部ゼミ「9.11放送自粛曲リストの謎」『放送レポート』202
- 上智大学田島泰彦ゼミ・立教大学服部孝章ゼミ, 2008「ロー・フォーラム メディアゼミ・フォーラム 2007/2008 問われる「事件・スポーツ報道」とジャーナリズム」『法学セミナー』53(4), 144-145 (以後、2015年まで毎年1回、同誌に掲載)
- 立教大学社会学部社会学科服部孝章ゼミ, 2008「それでも、スポーツ報道は必要だ~斉藤祐樹と斉藤俊にみる報道姿勢~」『放送レポート』215, 34-41
- 上智大学田島泰彦ゼミ・立教大学服部孝章ゼミ, 2015「ロー・フォーラム メディアゼミ・フォーラム 2014/2015 報道とメディアに問われているもの」『法学セミナー』2015/5 No.724, pp.6-7

【対談・座談会など】

- 加納実紀代・田中伸尚・服部孝章, 1989「座談会 象徴天皇制, マスコミ, そして市民——マスコミと市民との共闘に向けて(検証・天皇報道)」『法学セミナー 増刊 総合特集シリーズ』44, 2-27
- 服部孝章[他], 1990「座談会 犯罪報道と人権——いま・未来」『法と民主主義』247, 2-28
- 樺山紘一・猪口邦子・服部孝章, 1991「座談会 湾岸報道を考える——戦争が見えない(メディアと湾岸戦争)」『朝日ジャーナル』33(9), 77-80
- 服部孝章[他], 1993「座談会(市民のためのジャーナリズムは可能か? 一政権交代をむかえた中でのメディアの状況と法<特集>)」『法と民主主義』282, 19-32
- 青木貞伸・ばばこういち・服部孝章, 1996「<座談会>業績回復で拍車がかかる民放視聴率競争(特集 テレビ局の徹底研究)」『創』26(5), 22-34
- 愛川欽也・ばばこういち・服部孝章[他], 1996「<座談会>いまこそ視聴率至上主義を見直すべき(特集 検証!TBS問題)」『創』26(6), 74-85
- 服部孝章・桂敬一・蟹瀬誠一・田島泰彦・原寿雄・吉永春子「パネル・ディスカッション TBSビデオ問題を考える」『放送レポート』141(1996年7・8号)

- 桂敬一・服部孝章, 1997 「<対談>多チャンネル化と放送界への権力規制 (特集 検証!テレビ界の現状)」『創』27 (2), 30-45
- 青木貞伸・ばばこういち・服部孝章, 1997 「<座談会>史上空前の売上げながら問題山積のテレビ界 (特集 テレビ局の徹底研究)」『創』27 (4), 18-31
- 服部孝章・鈴木みどり, 1997 「対談 メディアの商業主義が侵す人権 (「神戸小学生殺害事件」の深層)」『潮』463, 108-115
- 青木貞伸・ばばこういち・服部孝章, 1998 「<座談会>好業績誇るテレビ局に問われるジャーナリズム性 (特集 テレビ局の徹底研究)」『創』28 (2), 16-30
- 桂敬一・服部孝章, 1998 「対談 デジタル多チャンネル時代の「放送」を問う」『放送レポート』151 (1998年3・4月号)
- 青木貞伸・ばばこういち・服部孝章, 1999 「座談会 逆境の中でBSに踏み出すテレビ局の混迷 (特集 テレビ局の徹底研究)」『創』29 (1), 16-31
- 青木貞伸・ばばこういち・服部孝章, 2000 「座談会 視聴者不在のデジタル化とジャーナリズムの衰退 (特集 テレビ局の徹底研究)」『創』30 (1), 18-29
- 野沢尚・服部孝章・植田豊喜 [他], 2000 「特集 座談会 テレビを信じるな」『新・調査情報 passingtime』(23), 434, 4-19
- 山口俊一・水島広子・服部孝章, 2000 「鼎談 メディアが倫理を守らない以上青少年保護育成のための法案は作らざるを得ない (特集 メディアに対する規制強化)」『アウラ』144, 9-19
- 田原総一郎・服部孝章, 2001 「対論!テレビと政治 田原総一郎×服部孝章——テロ事件で見えた米国のメディア戦略 (特集 (1) 米国テロ事件とメディアのあり方)」『創』31 (10), 12-24
- ばばこういち・服部孝章・川島正, 2002 「座談会 業績暗転テレビ界"混迷"の行方 (特集 テレビ局の徹底研究)」『創』32 (1), 14-23
- ばばこういち・服部孝章・川島正, 2003 「座談会 "混迷"テレビ界で進むジャーナリズム性の喪失 (特集1 テレビ局の徹底研究)」『創』33 (1), 14-23
- ばばこういち・服部孝章, 2004 「対談 大揺れNHKに問われているもの」『創』34 (9), 50-61
- 服部孝章・坂上香・野中章弘・蓑葉信弘, 2005 「シンポジウム 市民、政治、放送～NHK「政治介入」問題を考える～」『放送レポート』195
- 服部孝章・森達也・飯室勝彦, 2005 「2005年春季人権週間プログラム 敗戦から60年憲法論議 人権への果てしない問いかけ」『立教』194
- ばばこういち・服部孝章・川島正, 2006 「座談会 大揺れ!放送界に問われたものは何だったのか (テレビ局の徹底研究)」『創』36 (1), 16-29
- 森達也・飯室勝彦・服部孝章, 2007 「人権への果てしない問いかけ——『わたし・あなた』の日常から考える」『豊かで複雑な、僕たちの世界 森達也対談集』作品社
- ばばこういち・服部孝章・砂川浩慶, 2007 「座談会 政治介入にさらされるテレビに今、問われるもの (テレビ局の徹底研究)」『創』37 (1), 30-39
- 服部孝章・田島泰彦・醍醐聰・松田浩, 2007 「座談会 どこへ行くNHK」『放送レポート』205
- 服部孝章・魚住昭・飯田正剛, 2007 「座談会「編集の自由」は誰のものか」『放送レポート』206
- ばばこういち・服部孝章, 2008 「対談 曲がり角迎えたテレビ界の現実——ばばこういち×服部孝章 (テレビ局の徹底研究)」『創』38 (1), 30-41
- 服部孝章・戸崎賢二・醍醐聰・日隅一雄・岸博幸・隈元信一, 2008 「パネル・ディスカッション NHKは本当に「つらい」のか」『放送レポート』212号
- 服部孝章・砂川浩慶, 2009 「対談 テレビにいま何が問われているのか 逃走する巨大メディア テレビ界の現実 (テレビ局の徹底研究)」『創』39 (1), 78-85
- 服部孝章・砂川浩慶, 2010 「特別対談 加速する「TV離れ」に出口はあるのか? (特集 テレビ局の徹底研究)」『創』40 (1), 30-39